

Japan Geoscience Union Meeting 2011

(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)

©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.



GSC022-P02

会場:コンベンションホール

時間:5月23日 14:00-16:30

東北大学「はやぶさ」特別展でのアンケート結果からみる大学広報活動 Public programs of Hayabusa by Tohoku university on and the public response

久利 美和^{1*}

Miwa Kuri^{1*}

¹ 東北大学大学院理学研究科

¹ Science, Tohoku University

東北大学では、本年度の広報企画として、一連の「はやぶさ」特別展を行った。一連の展示概要は以下の通りである。各企画について、来場者アンケートを行っており、その結果にみる大学での一般公開のあり方について意見をのべる。

【企画1:「はやぶさ」実物大模型展示】

東邦大学片平キャンパスエクステンション教育研究棟1階広報展示スペースのオープン企画として、10月3日より10日まで、はやぶさ実物大模型特別展示が行われた。週末には、研究者による実物模型前での、研究紹介、平日には、院生及び広報担当教員による展示解説が行われた。限られた期間と予算での周知ではあったが、会期中、延べ1万人以上の来場者があり、約1400名のアンケートが回収された。アンケートを見ると、東北各地から足を運んでいただいております。中には、北海道や九州からの見学者もあった。週末の最終日は、講師の先生の解説も聞けるとあって、3度目の来訪という山形からのご年輩の女性の方が熱心に講師に質問したり、平日の来場者が知人を連れて自ら説明を行っていたりという場面があった。また、展示解説は、これまで「はやぶさ」は名前くらいしか聞いたことがないという、見学者に極めて満足度が高かったことが、わかった。

【企画2:スペシャルサイエンスカフェ】

東北大学では定期的にサイエンスカフェ企画を行っていることから、企画1の初日のイベントとして行った。研究者3名による、サイエンスカフェ、および見学会が行われ、直前の案内であったにもかかわらず、定員の100名があったという間に満席となった。実物模型前での、講師と来場者の質疑応答は、非常に活発であり、また、アンケートからも、極めて満足度の高い企画だったことが伺えた。

【企画3:東北が支える宇宙惑星研究】日本の宇宙関連の研究、技術開発には国中の研究者、技術者たちが参画していますが、東北地域の大学や企業もおおいに貢献しています。今回の展示では、スプライト観測衛星「雷神」、月周回衛星「かぐや」、小惑星探査機「はやぶさ」、金星探査機「あかつき」に関わる東北大学と会津大学の研究を紹介した。12月初旬より1月末日までの展示であったが、解説等のない企画であったこともあり、アンケートの回収は、きわめて少ない。

【企画4:東北大学・読売新聞共同プロジェクト 市民のためのサイエンス講座】

「「はやぶさ」の軌跡の物語」と題し、12月23日の午後、東北大学川内萩ホールにて、川口淳一郎氏、出村裕英氏、吉田和哉氏、中村智樹氏を講師に、山根一をパネルディスカッションコーディネーターとし、実施した。

【アンケート全体として】

実物大展示企画では、「はやぶさ」へのメッセージを書く欄もあり、様々な年代の多くの方が、記入くださった。また、高関心層むけの研究者による講演と、入門向けの展示解説を明確に位置づけたことで、来場者の満足度が高まり、何度も足を運んで下さる方、これを機に、新聞や雑誌を見るたびに「はやぶさ」の文字を探し、熟読するようになったという方もおり、広報企画として非常に効果が高かったことが読み取れた。末尾ながら、本広報企画は各組織の多数のスタッフの協力と連携のもと実施されているが、アンケート実施および解析については、著書の責任のもと実施させていただいたこと、申し添える。

キーワード: 広報企画, アンケート

Keywords: public programs, public response